



足立の花火

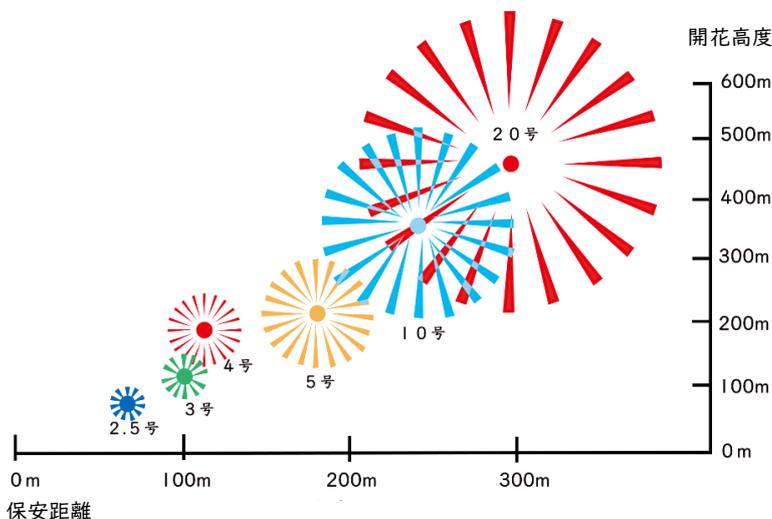
あだち やく れきし
足立の花火は約100年の歴史があるそうです。

めいじだ い せんじゅおおはし かんせい いわ う はじ
明治時代、千住大橋の完成を祝って打ち上げられたのが始まりと言われています。その後大正時代に「千住の花火大会」として開催され、戦争で中断したり、名前が変わったりしながらも「足立の花火大会」として今に続いているそうです。

「花火」の始まりにはいくつかの説があるそうですが、紀元前3世紀ごろの中国でのろし（離れた場所にいる人に合図を送るためのもの・けむり）に使われていた黒色火薬が始まりだといわれています。日本へは、火薬は16世紀の戦国時代に伝わり、今の花火の原型となる「のろし花火」というものが生まれたのは17世紀の江戸時代でした。武器としての火薬が平和な時代に人々を楽しませるものになっていきました。そのころの花火は今より暗く、色も1色しかなかったようですが、現在では火薬に混ぜる化合物によって様々な色が表現

できるようになりました。古くからある花火も日々進化して私たちの目を楽しませてくれているのですね。

さて、まるちたいけんドームで上映している「足立の花火!」はご覧いただけただしょうか?花火を真下から見上げているような迫力のある映像、火の粉がゆっくり降り注ぐ場面になるといつも堪らない気持ちになります。身体を駆け抜けていく轟音や、火薬の匂い、雑踏の熱気や夏の湿度、いろいろな人の笑顔



火火の尺玉のサイズによって打ちあがる高さやサイズが違います。足立の花火で1番大きいものは4号(直径12cm)の尺玉です。20号の尺玉では直径60cm、重さは70kgにもなります。

を思い出します。来年は、足立の花火が本物の空にあがりますように。

かいせつじん まつもと もえ
(解説員:松本 萌)